

事業活動実績報告書

施 設 名	明昭第二幼稚園
教 育 理 念	○子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体とやさしい心、人とかかわる力、たくましさ育てていく。○子どもたちの主体性を大切に、一人ひとりの個性、発達に応じた遊びを中心とした援助・保育をする。
1 事業名	野菜の栽培などを中心とした食育に重点を置いた保育
2 実施期間	令和 7年 5月 8日 ～ 令和 8年 3月11日

3	取組概要	（取組日） 令和7年 5月 8日 ～ 令和7年 9月17日	
		（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		5歳児がラッキー通り商店街のメロン育て隊に参加。4鉢のメロンの苗を購入。地域の方にアドバイスいただき栽培。今年は苗が植えられた状態で園に届く。日々観察し、花が咲いたが実がならず、収穫時期を過ぎた9月中旬まで子どもたちは水やりをし、様子を見た。地域の方にも相談し追肥するなどしたが、他でも失敗例が多く、苗に問題があったかもしれないということだった。子どもたちと相談し、栽培を断念し苗を処分する。苗の問題以外にも気候や鉢を置いた場所など失敗の原因を話し合う。自然の厳しさと栽培の難しさを知る。	
		（取組日） 令和7年 5月13日 ～ 令和7年 6月23日	
		（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		3歳児で保育室前のプランターでピーマン、枝豆、オクラを苗から3株ずつ栽培し、葉が育ち花が咲く様子、実がなる様子を観察する。水やりをし、成長を楽しみにする子どもたち。花の色や葉の形、実の大きくなる様子などを興味深く観察した。普段、目にする野菜の育ちを見ることで食への興味・関心が高まる。6月23日に収穫し、ピーマンやオクラはスタンピングに使用し、野菜の断面にも興味を持てた。絵本「やさいのおなか」も見て楽しんだ。枝豆は乾燥させ、大豆として節分に使用。給食のお弁当の野菜を食べようとする気持ちが育つ。	
		（取組日） 令和7年 5月13日 ～ 令和7年7月17日	
		（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		5歳児が2階のベランダでトマトをクラスで3株ずつ苗からプランターで栽培する。毎日水やりをし、花が咲き、実がなる様子を観察する。実が赤く熟したところで7月よりトマトを収穫、クラスで分けて食べる。陽ざしが強く、熱いところに置いていたため、あまりならなかった。子どもたちは、トマトの収穫を楽しみに、出来たトマトを大切にみんなで食べた。3～5回収穫し、数個ずつ、食べる順番を決め食べた。順番が来るのを楽しみにしていた。育てる難しさや収穫が少ないことで、よりいっそう、食べ物を大切に育てる気持ちが育った。	
		（取組日） 令和7年 6月 2日 ～ 令和7年11月26日	
		（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		4、5歳児がお米作りに挑戦する。発泡スチロールのトロ箱の田んぼに秋田の農家から送られてきた苗を先生と何人かの子どもたちで植える。毎月の生育状況を知らせる通信と農家とのオンライン発信で、生育過程や栽培過程で農家が行う作業の意味と内容が知らされた。栽培のアドバイスもいただく。収穫前に稲穂を送っていただき、自分たちで育てた小さな稲穂から取り出した米粒と送られてきた大きな稲穂の米粒を比較した。育て方や環境による生育の違いや育てる難しさを感じた。農家から新米が送られ、おにぎり作りへ活動は広がった。	

3	取組概要	(取組日) 令和7年 6月17日 ～ 令和7年 6月17日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 5歳児が4歳児の時(3月)に屋上に植えたジャガイモを収穫する。葉の形や花の色、収穫時にジャガイモのなり方を観察した。いくつも連なって出てくるジャガイモを喜んで収穫していた。大きさが小さく、数はあまりとれなかったが、ジャガイモはカレー作りの材料として使用する。	
		(取組日) 令和7年 6月20日 ～ 令和7年 6月20日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 5歳児がカレーをつくり、全園児に提供する。人参、ジャガイモ、玉ねぎ、肉、カレールーを材料に調理する。ジャガイモは屋上で育て収穫したものを使用。三角巾を被り、エプロンをして材料を切るところからカレーづくりに挑戦。各クラス3グループ、合計9グループに分かれ、寸胴で調理。9つの鍋にわけ、各クラスと職員室に配膳、ご飯を入れたお弁当箱にカレーをよそう。温かくておいしいカレーの香りが食欲をそそり、ルーのおかわりが続出。野菜嫌いの子が喜んで食べている姿も見られた。カレーの絵本、ままごとセットも活用し、調理法を学ぶ。	
		(取組日) 令和7年 6月27日 ～ 令和7年 6月27日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 5歳児が埼玉県加須市にある東部給食センターへ観光バスで見学に行く。調理施設を見学し、給食ができるまでの説明を受ける。大きな調理道具や大勢の方が調理に携わっていること、野菜など新鮮な食材の調理法など、様子をじっくり観察する。残食もブタのエサになったり、無駄にすることなく大切に活かされていることも学ぶ。管理栄養士のおはなしの後、出来立ての給食を食べ給食を作ってくれている方々へ感謝状をお渡しする。見学後の給食で子どもたちの様子が変わり、残さず食べようとする意欲が高まり、好き嫌いも少なくなる。	
		(取組日) 令和7年10月 3日 ～ 令和7年10月 3日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 3～5歳児の親子いもほり遠足。観光バスで川越に行き実施する。3歳児は保護者に手伝ってもらい、サツマイモを掘り、土の感触を確かめる。4、5歳児は自分たちの力でイモを掘り、土の奥深くにできているイモを観察し、収穫の大変さを知る。5歳児は6月に掘ったジャガイモと比較することができた。農家が育てた里イモの葉も見ることができた。園に掘り出した里イモも持ち帰り、観察できるようにした。いろいろなイモがあり、葉やイモの形、なり方の違いを知る。家庭でサツマイモを味わう。他のイモにも興味を持ち、家で食べた子もいた。	
		(取組日) 令和7年10月14日 ～ 令和7年10月14日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 満3歳児が屋上菜園で育てたサツマイモを収穫。3～5歳児は観光バスで川越に行き、いもほりをするが、満3歳児は体力を考慮し、園で行う。土の中にいる虫を怖がる様子もあったが、土の中からサツマイモが見え始めると嬉しそうに土を掘っていた。2人ずつ協力して1株抜き嬉しそうな表情で、収穫の達成感を味わっていた。今年は大きく育たず、小さなイモばかりだったが、その分、抜きやすかった。給食で出たサツマイモにも興味を持っていた。自然(土)に触れる体験、葉の形、イモの感触やイモの大きさや形の違いを実感し、楽しんだ。	

3	取組概要	(取組日) 令和7年11月 4日 ～ 令和8年 3月11日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		4歳児が屋上菜園で種からダイコンを栽培する。例年と同じ時期に種まきをしたが、育ちが悪く、葉も大きくならなかった。収穫時期の1月末から2月初めに試しに抜いてみたが小さく、収穫を遅らせた。その後も成長に変化が見られず、3月に大根を2人1組でひっぱって抜く。小さいダイコンしかとれなかった。辛くて食べることも出来ず、観察用に園に置き、他の園児も観察した。4歳児の希望者のみ、家庭に持ち帰る。上手く収穫出来ず、自然の厳しさを知る。今後は種まきの時期や土壌改良など農家にアドバイスいただくなど対策を講じていく。	
		(取組日) 令和7年12月 2日 ～ 令和7年12月 2日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		4、5歳児のおにぎりづくりと全園児へのみそ汁の提供。保護者におにぎり作りを手伝っていただく。オンラインで交流した秋田の農家から送られた新米を使い、子どもたちが塩むすびを2個つくりお昼ご飯に食べる。同日、全園児に保護者がみそ汁をつくり、マグカップに注ぎ、食べる。通常の給食と違い、あたたかい食事をとることができた。4、5歳児は自分たちで育てたお米と同じ新米を食べ、おいしさとともに食の大切さ、食物や作り手への感謝の気持ちが育った。あたたかいみそ汁を飲み、食事をしてくれるお母さんへの感謝の気持ちも育った。	
		(取組日) 令和7年12月 5日 ～ 令和7年12月 5日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		5歳児がもちつきをし、ついた餅を持ち帰り、家で食べる。うすいきねなどの餅つき道具を揃え、餅米から餅が出来るまでを体験。5歳児は餅を2個持ち帰る。持ち帰り用の餅の成型は年長の保護者役員が行う。子どもたちは三角巾をして、2人1組で杵をふるいもちつきをする。3、4歳児はその様子や餅ができるまでを観察する。クラスに飾る鏡餅を餅に触れながらみんなで1つ作る。衛生面に配慮し、もちつきや鏡餅づくりを体験し、食・食文化への興味・関心が広がる。	
		(取組日) 令和7年12月12日 ～ 令和7年12月12日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		全園児対象。いどう果樹園の園庭でのみかん狩り体験。めいしょう幼稚園と合同で行う。みかんの実をつけた木が43鉢並ぶ。園児1人当たり3個のみかんを収穫。満3歳・3歳児は取り方を聞き、収穫。4、5歳児は農家の方からみかんが出来るまでの説明を聞いてからみかん狩りをする。5歳児はおいしいみかんの見分け方を聞き、みかんを選び、収穫する。木や葉、なり方を観察し、みかんは1つは園で食べ、2つ家庭に持ち帰る。自分がとった甘いみかんを満足そうに味わっていた。家でもみかんの話をし、家族で食べて興味・関心が高まった。	
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの

効果検証報告書（継続事業用）

施 設 名	明昭第二幼稚園				
教 育 理 念	○子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体とやさしい心、人とかかわる力、たくましさ育てていく。○子どもたちの主体性を大切に、一人ひとりの個性・発達に応じた遊びを中心とした援助・保育をする。				

事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)				
	健康 ◎	人間関係 ○	環境 ◎	言葉	表現 ○
1 事業名	野菜の栽培などを中心とした食育に重点を置いた保育				
2 事業概要	屋上菜園でジャガイモ、サツマイモ、大根を、各学年・クラスで夏野菜、ピーマン、オクラ、枝豆をプランター栽培し、観察・収穫する。5歳児はカレーづくり、給食センター見学、地域商店街のメロン育て隊に参加し、メロンを栽培・収穫。もちつき体験をする。4歳児は5歳児と共に苗からのお米づくり、おにぎりづくりをする。全園児対象に保護者のみそ汁提供、移動果樹園みかん狩りを実施。家庭弁当を作る保護者への感謝状を贈る。食育関連の絵本・教材を使い、興味・関心を深め、マナーも学ぶ。				
3 対象学級(クラス名) 対象人数	満3歳児、年少2学級、年中2学級、年長3学級、全8学級 (クラス名: つぼみ、たんぽぽ、ひまわり、もも、さくら、つき、ほし、やま)			176 名	
計画時	4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 担任、教職員、保護者ボランティア(役員)、園児が携わる。他施設、事業を利用する。 屋上菜園、プランターで野菜を栽培。カレーづくりを実施。もちつき、みそ汁提供、おにぎりづくりでは、鍋、ガス、ガスコンロ、うす、きね、炊飯器などを準備。保護者ボランティアが参加する。外部施設・事業は給食センター見学、移動果樹園みかん狩り(園庭)を利用。グローバルキッズによるお米づくりプロジェクト、地域商店街のメロン育て隊に参加する。 食育につながる絵本・教材(もの)を購入。母親(お弁当を作ってくれる保護者)への感謝状を作成する。毎月、少年写真新聞社のきょうしよくニュースを掲示する。			
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・計画的に実施したため、人員体制・準備を十分に整え、問題なく活動を進めることができた。が、地域商店街のメロンづくりは地域で進める活動のため、前年より開始時期が遅れ、苗が鉢に植えられた状態で届いた。今後は地域と相談の上、園児が苗を鉢に植えるなど活動を進めていきたい。・食育につながる絵本・教材は園にあるものを活用した。年間購読の「かがくのとも」や「こどものとも」などの自然やおはなしの月刊誌は、栽培や食育にかかわるものを利用した。季刊雑誌「野菜の時間」は栽培の参考に、「いただきますごちそうさま」は掲載の食育実践例を参照した。園で購読している「きょうしよくニュース」も掲示版に毎月掲示し、家庭へもおたよりを配布し、興味・関心を広め、家庭での実践へ役立てた。お弁当を作ってくれた保護者への感謝状の作成は学年ごとに任せ、5歳児は感謝状を作成し、3、4歳児は子どもがお礼を言う形とした。活動を通し、育てた食物や食事を作ってくれる人への感謝や食べ物を大切にする気持ちが育った。			
計画時	5 事業のねらい	・食育を通して健康な体づくりをする。 ・楽しく食べることや栽培、絵本、紙芝居、パネルシアター、ままごとセットなどをを用い、食への興味・関心を深め、食への意欲を高める。 ・食べ物を食べることを通し、生命を尊重し、いただきます、ごちそうさまの精神を学ぶ。 食べものを無駄にしない、大切にすることで食品ロスをなくすなどSDGsの問題も考えられるようになる。(カレーづくり、おにぎりづくりなど) ・食のマナーを身につける。(食育関連教材などを使用) ・給食センター見学などを通し、食事を提供してくれる人やお弁当を作ってくれる母親(保護者)への感謝の気持ちを育む。 ・栽培、観察、収穫を通し、自然(育つ様子、葉や花の形や色、実のなり方など)に気づき、興味・関心を持つ。 ・自然環境により生育が異なることを知り、自然の恵みへの感謝の気持ちを育む。			
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・健康な体づくりは食べる楽しさや興味や関心が広がり、形成されていった。・絵本やままごとは日常保育や遊びで取り入れられたが、今後は紙芝居やパネルシアターも積極的に利用していきたい。・生命を尊重する姿勢は栽培の過程などで育まれ、いただきます、ごちそうさまの精神は昼食時に身につけていった。野菜の栽培、カレー・お米づくり、給食センター見学は農家や作り手への感謝の気持ちや食べ物を大事にする心を育て食品ロスをなくす姿勢形成につながった。・食のマナーは箸掴みゲーム(教材)や食事時の援助・指導で身に付いた。・保護者(母親)への感謝の気持ちは3、4歳児は言葉で、5歳児は感謝状で伝え、感謝の気持ちを形にすることの大切さを学んだ。・屋上や園庭で実をつける柿、りんごやスーパーに並ぶ野菜や果物にも興味や関心を持ち、図鑑で花の色などを調べる姿も見られ、探究心も育った。・気候不順で、メロンは出来ず、大根も大きく育たなかった。今後は栽培環境についても考え、農家にアドバイスいただくなどして改良していきたい。			

計画時	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ・5月下旬～7月中旬 地域のメロンづくりに参加。栽培・観察・収穫。地域交流体験。5月中旬～7月 プランターでトマト、キュウリ、ピーマンなどの野菜を苗から栽培。観察・収穫し、食べる。野菜スタンプなどに活用。6月中旬～下旬 5歳児東部給食センターに観光バスで施設見学、屋上で収穫したジャガイモを使用し、カレーづくりをし、全園児にふるまう。9月下旬～10月初旬 満3歳児屋上菜園でサツマイモ掘り、他学年は荒畑農園(川越)でいもほり(観光バス)10月～1月 4歳児が屋上菜園で大根栽培・観察・収穫。6月～11月 4、5歳児お米・おにぎりづくり、12月園庭でのみかん狩り、5歳児もちつき体験、全園児に保護者がみそ汁調理・提供。栽培と絵本・紙芝居や教材などを通じ、食への興味・関心、食べ物を大切に作る・作り手の感謝の気持ちを育み、食のマナーや習慣を身につける。 上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点 ・積み重ねー屋上菜園、プランターでの栽培。5歳児のカレーづくり、もちつきなどの活動をする。 ・発展ー幼稚園教育要領の「健康」「環境」にかかわる内容を深める。年間計画の中に栽培計画を位置づける。新規活動満3歳児の屋上菜園でのいもほり。・園外の資源を利用し活動を展開。地域商店街のメロンづくりに参加。給食センター見学。お米・おにぎりづくり、みかん狩りを通し、地域交流や生産者・作り手への感謝の気持ちが育まれる。「人間関係」の内容に発展。保護者の方にお手伝いいただくみそ汁づくり、もちつきで食の喜びや大切さを体験、お弁当を作る母親(保護者)へ感謝状を贈るなどの活動もする。「言葉」も地域交流や感謝の気持ちを表すなどで深まり、3歳児の野菜スタンプは「表現」にかかわる活動となる。 (継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点 ・5歳児がお米づくりに再挑戦し、おにぎりづくりをする。 ・栽培物は、子どもの姿や季節を考慮し、育てるものや時期を毎年検討している。 ・実施予定(検討中) 葛飾げんき野菜の栽培農家の畑を見学し、お話をうかがう。葛飾で育てられ、収穫されている野菜の生育などを知り、味わう。(例:大根農家の話やアドバイス→自園の屋上菜園での大根栽培。)
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・5歳児のお米作りの再挑戦は前年度の反省を踏まえ、実施された。苗の観察に始まり、土の感触を味わった。昨年同様、発泡スチロールのトロ箱を使い実施した。子どもたちの興味・関心が深まり、より丁寧な観察とかかわりができ、4歳児のお米作りにも生かされた。昨年に比べ上手く育たず、気候が生育に影響することを学ぶ。昨年おにぎり作りを体験した5歳児は活動を楽しみに、家で練習する子が多かった。・4月当初に食育の全体計画を教職員で話し合い実践を行ったため、時期、準備とも十分に出来た。・葛飾げんき野菜の栽培農家見学は事前の日程調整や方法などの検討が上手く出来ずに実施を見送った。今年はダイコンづくりが上手いかなかったため、可能であれば次年度は大根農家を見学し、アドバイスをいただくなどして自園での栽培に活かしていきたい。
計画時	7 環境構成例	・地域のメロンづくりでは、5歳児3クラスに苗1鉢と土のセットと園用に1セットを購入。 ・学年ごとにクラス前で野菜(トマト、きゅうり、ピーマン、枝豆など)の苗を購入し、育てる。観察、収穫し食べたり、野菜スタンプなどに利用する。 ・5歳児カレーづくり、もちつきでは園児はエプロン、三角巾をし、調理などする。材料や燃料(ガス)、寸胴、とりわけ鍋、杵、うすなどの道具類を用意。カレーは全園児にふるまい、餅は小さく丸めたものを食べる。3、4歳児はもちつき見学や鏡餅づくりでもちに触れる。 ・5歳児が東部給食センター見学、観光バスで行き施設見学・給食を食べ栄養士のお話を聞き、感謝状を渡す。お弁当を作る母親(保護者)やみかん、お米農家にも感謝状を用意。 ・屋上菜園で満3歳児が10月前後にいもほりをするためサツマイモを栽培。 ・4歳児が大根の種まきと収穫、野菜スティックにして食べる。農家の方に助言をいただく。 ・移動果樹園みかん狩りを行い、みかん農家の話を聞き、園庭に並んだみかんの木からみかんをとり、食べる。 ・栽培に必要な種、苗、土、肥料、プランター、道具類などを使用する。 ・絵本、紙芝居、パネルシアター、教材を都度利用する。 ・葛飾げんき野菜の栽培農家を見学し、話をうかがう。(新規実施予定)
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・栽培物、カレーづくり、もちつきとも適切な時期に十分な準備のもと実施できた。夏場に栽培がかかり実が出来なかったメロンづくりは、日に当たらない所に置くなどの工夫が必要だった。・東部給食センター見学などで感謝状を送り、作り手への感謝の気持ち、食物を大切に作る気持ちが育つ。・屋上菜園で育てたサツマイモを11月に満3歳児が収穫、小さいながらも土にふれる貴重な体験が出来た。・4歳児の大根栽培は農家のアドバイスを聞く機会を設けられずに初めて上手く育たなかった。今後は土壌の改良や天候対策などアドバイスいただき、改善していきたい。・雨天中止のみかん狩りも天候に恵まれ実施できた。3歳児の体験が4歳児でのみかんの生育への興味に、5歳児での農家の方のお話の理解につながる体験となった。・絵本は活用できたが、紙芝居やパネルシアターの有効活用も今後は考えて行きたい。・元気野菜栽培農家の見学とお話をうかがうことは日程調整と内容検討が上手くできず、未実施となった。大根栽培の改善を含め、次年度に実践していきたい。

計画時	8 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・野菜の栽培を通して、観察、収穫し、食べることで食の大切さを知り、食に興味や関心を持ち、食べる意欲が育つ。 ・様々な野菜の成長に興味を持ち、他の野菜を育てようとする意欲が芽生える。 ・カレーづくりやみかん狩り、お米づくり、給食センター見学を通して、生産者や作り手への感謝の気持ちが育まれる。 ・地域の人に助けられメロンづくりをすることで地域交流や感謝の気持ちが育まれる。 (実施予定の葛飾げんき野菜農家見学によっても地域への感謝の気持ちが育まれる。) ・食事の仕方、マナーなどを知り、正しい食習慣を身につけられるようになる。 ・もちつきを通して食文化にふれ、興味や関心を持つ。 ・いろいろな野菜を栽培し、観察することで葉や花の色や形、育つ時期や育ち方などを知り、興味を持つ。(色や形、自然につながる体験をする。)
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・野菜の栽培、観察、収穫を通して育てたものへの愛着が育ち、食べ物を大事にする気持ちや食への興味・関心、意欲が育つ。観察を通して、葉の形、花の色、育つ過程に興味を持ち、他の野菜がどう育つか興味・関心が広がり、担任が読み聞かせた絵本で知ったり、図鑑で調べる姿も見られ、探究心も育っていった。・作り手への感謝の気持ちも、給食センター見学やお米の農家とのオンライン交流などの活動の中で育まれた。・商店街のメロンづくりでは地域交流の機会を多く持たずにタイミングよくアドバイスいただくことが出来なかった。今後、改善していきたい。葛飾元気野菜栽培農家との交流の実現も今後の課題である。・食事のマナーや食習慣については、日常の保育やきょうしよくニュースなどで伝えてきた。・食文化については、もちつき以外にも、おせち料理について絵本『おせち』で興味を育む。お月見だんごを作って食べるなど、料理をつくる絵本に関連させて食体験を広げていきたい。今後も日本の文化や生活に根ざした食の意味を理解し食育も考えていく。
	9 効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ・各活動は計画通りに進んだが、気候の影響を受け、メロンやダイコンのように上手く生育しないものもあった。が、自然の厳しさや野菜を育てる農家の苦労や大変さを知ることができた。育った野菜を大事に見守り、収穫して食べる姿も見られ、育てたものへの愛着や食べ物を大切にすることをより強く覚えていった。今後は、栽培(生育)環境についても考え、工夫していきたい。・栽培(生育)過程を知ることは他の植物や果物への興味・関心にも広がり、育ち方や葉や花の色形を調べるなど探究心を育んだ。給食センター見学は食品ロスについて考え、作り手への感謝の気持ちを育み、見学後は食べ残しが少なくなった。メロンづくりを通し、地域交流をさらに深め、葛飾区内の元気野菜栽培農家との交流も行っていきたい。食事のマナー、感謝の気持ちは日々の保育を通して形成することをこれからも続けていきたい。同じ体験でも経験する年齢により内容を変えたり、子どもの受け取り方も異なるので、みかん狩りや2年続けての5歳児でのお米作りは意義ある活動であった。育てる、施設見学以外にも視覚教材を通して食に対する興味・関心を育むことができた。実体験とともに今後も活かしていきたい。食の大切さを食べる楽しさを中心に栽培や施設見学などを通して育んできた。地域との交流も出来た。今後も生きるために必要な食について体験を通して考え、子どもたちの心を育てていきたい。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。